

高齢者おでかけ支援「シニア半わり」について

■ H28年度の実施概要について

・実施概要

専用のバスICカード「シニア半わりりゅーと」を活用し、高齢者のバス運賃を半額にすることによって、お出かけの促進や健康寿命の延伸などを図る。

・対象エリア

路線種別		半わり適用の可否	備考
一般路線バス (新潟交通)	IC対応	○	
	IC非対応	×	
区バス・住民バス (一部路線を除く)	IC対応	○	
	IC非対応	○	「シニア半わりりゅーと」を乗務員に提示することで対応。

・実施期間 : 平成28年夏頃より開始予定

・参加定員 : 定員枠なし

・参加要件 : 新潟市在住の65歳以上の方

・参加費 : 無料

■ 社会実験の実施実績

年度	H24	H25	H26	H27
期間	10/1~3/31 (6か月)	6/1~10/31 (5か月)	7/1~3/31 (9か月)	12/16~3/31 (3.5か月)
定員	500人	400人	2,000人	概ね3,000人
参加者	426人	282人	1,924人	3,044人
参加要件	新潟市在住、65歳以上が対象			
利用者負	3,000円	2,500円	3,000円	0円

1. 平成 27 年度「シニア半わり」社会実験について

① 実施概要

新潟市在住の 65 歳以上の高齢者を対象に、専用 IC カード（下図）を使ってバス運賃を半額とする社会実験を実施しました。

カードデザイン		
対象区間	新潟交通路線バス：「りゅーと」カードが利用できる区間 区バス・住民バス：全区間	
	申込期間	利用期間
	平成 27 年 11 月 9 日～平成 27 年 12 月 15 日	平成 27 年 12 月 16 日～平成 28 年 3 月 31 日 ※期間後は通常の「りゅーと」カードとして引き続き利用可

参加費用：2,000 円（内訳：初期入金額 1,500 円＋カード預り金 500 円）

② 高齢者運転免許証返納サポート事業との連携

高齢者運転免許証返納サポート事業で配布している通常のりゅーとカードを、希望者にはシニア半わりりゅーとカードへ変更できるよう連携しました。

参加しない場合	→	高齢者運転免許証返納サポート事業と連携したシニア半わり
「りゅーと」(10,000 円分)	→	「シニア半わりりゅーと」(10,000 円分)
「りゅーと」(5,000 円分) + タクシー券 (5,000 円分)	→	「シニア半わりりゅーと」(5,000 円分) + タクシー券 (5,000 円分)
	申込期間	利用期間
	平成 27 年 11 月 9 日～平成 27 年 12 月 15 日	平成 27 年 12 月 16 日～平成 28 年 3 月 31 日 ※期間後は通常の「りゅーと」カードとして引き続き利用可

③ 参加人数（人）

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	合計
シニア半わり	86	651	1,196	115	32	72	886	6	3,044
免許返納連携	6	5	13	9	1	2	4	1	41
合計	92	656	1,209	124	33	74	890	7	3,085
割合	3.0%	21.3%	39.2%	4.0%	1.1%	2.4%	28.8%	0.2%	100.0%

2. 目的

誰もが移動しやすい交通環境の実現に向け、特に普段あまりバスを利用しない高齢者の方に、より多くバスに乗っていただけるような仕組みを作ること。

- ・ 超高齢化に対応した健康都市づくり、生きがいつくり⇒健康寿命の延伸
- ・ 高齢者のまちなかへのお出掛けを促進⇒まちなかでの消費拡大
- ・ 環境に配慮した移動手段への転換⇒公共交通の利用促進

3. アンケート集計結果

(1) 実験による効果

① バスの利用日数が少なかった人の利用増加が特に多く見られました。

1 週間あたりのバス利用日数について、実験前が 0 日と回答された人の 84%の方が、実験中のバス利用日数が増えました。同様に、実験開始前が 1 日だった人で 55%、2 日だった人で 55%の方の実験中のバス利用日数が増えました。（図 1）

また、実験開始前のバス利用日数が 1 週間あたり 0 日～2 日だった人の平均利用日数については、実験前 1.2 日から実験中 2.1 日に増加しました（図 2）。

このことから、シニア半わりの実施により、バス利用日数の増加につながったと考えられます。

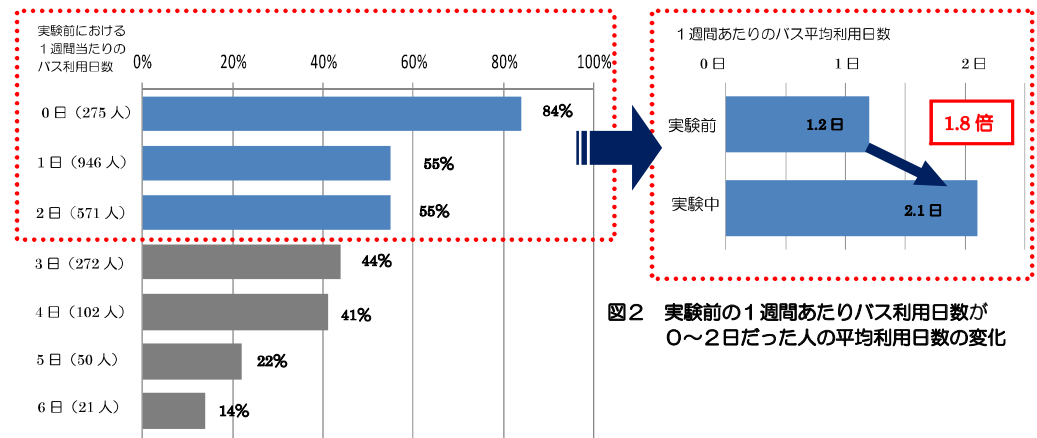


図 2 実験前の 1 週間あたりバス利用日数が 0～2 日だった人の平均利用日数の変化

回答者数：2,237 人（複数回答・無回答・毎日バスを利用される方を除く）

図 1 実験中にバスの利用日数が増えた人の割合

② 主な移動手段として、バスへの利用転換に繋がりました。

主な移動手段をバスと回答した方は、実験前の 1,130 人（49%）から実験中は 1,811 人（77%）と、約 60%増加したとともに、主な移動手段を自動車と回答した方は、実験前の 515 人（22%）から 313 人（13%）と、約 40%減少しました。（図 3）

また、実験前の主な移動手段を自動車と回答した方 515 人のうち、209 人（41%）が実験中はバス利用に転換しました。（図 4）

以上のことより、シニア半わりの実施により、バス利用への転換促進に効果があるものと考えられます。

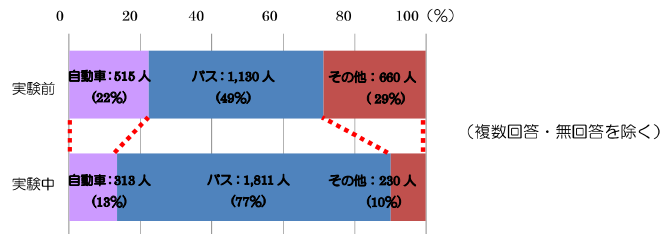


図 3：実験前、実験中における主な移動手段の変化

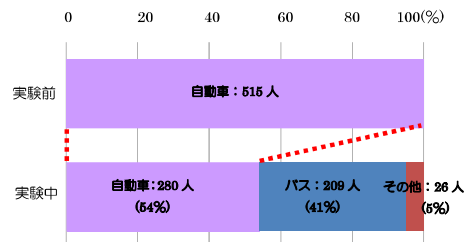


図 4：実験前に自動車を主な移動手段としていた人の移動手段の変化

③ 新たなお出掛け機会の増加に繋がりました。

シニア半わりの参加により「新たなお出掛け機会が増えた」と回答した方は 1,604 人（71%）でした。

また、増えた方の新たなお出掛け先については、古町周辺（28%）が一番多く、次いで新潟駅周辺（25%）、万代周辺（25%）であり、新たなお出掛け目的としては、買い物（52%）、趣味・習い事・食事（33%）となっていました。

このことからシニア半わりは、まちなかへのお出かけ促進に有効であることが考えられます。（図 5、6、7）

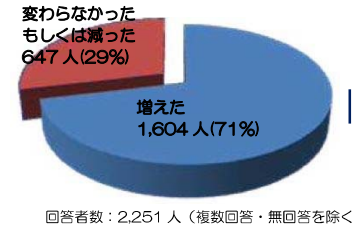


図 5：実験による新たなお出掛け機会の変化

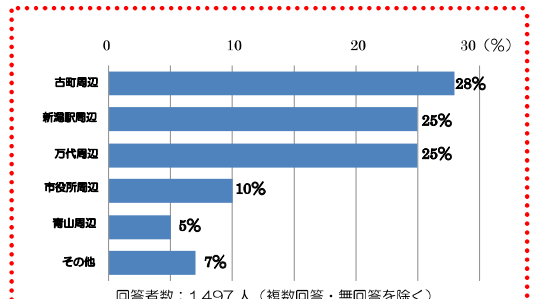


図 6：「お出掛け機会が増えた」と回答された方の新たなお出掛け先

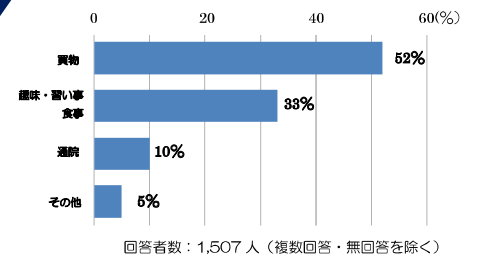


図 7：「お出掛け機会が増えた」と回答された方の新たなお出掛け目的

(2) 実験参加者の意識変化

① これまでより多くバスを利用しようと思うきっかけになりました。

シニア半わりに参加したことで、「これまでよりもバスを多く利用しようと思うきっかけになった」と回答した人が 2,406 人（89%）であったことから、バス利用の促進に向けた意識変化に繋がったと考えられます。（図 8）

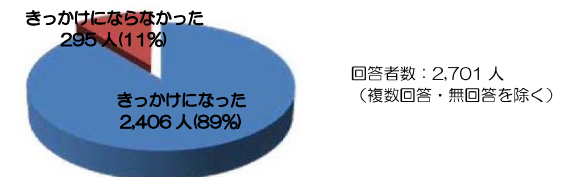


図 8：シニア半わり参加によるバス利用への意識について

② これまでよりも多く歩くようになりました。

シニア半わりに参加したことで、「これまでよりも多く歩くようになったと思う」と回答した人が 1,770 人（66%）であったことから、健康増進に向けた意識変化も期待できると考えられます。（図 9）

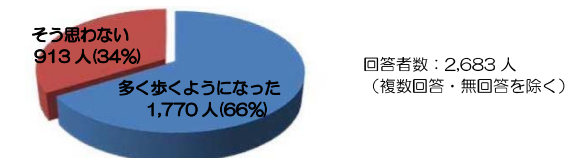


図 9：シニア半わり参加による歩行への意識について